

環境の変化を乗り越えて！！

(株)アール・ケア
グループホームはるや
立花 圭

対象者Aさん

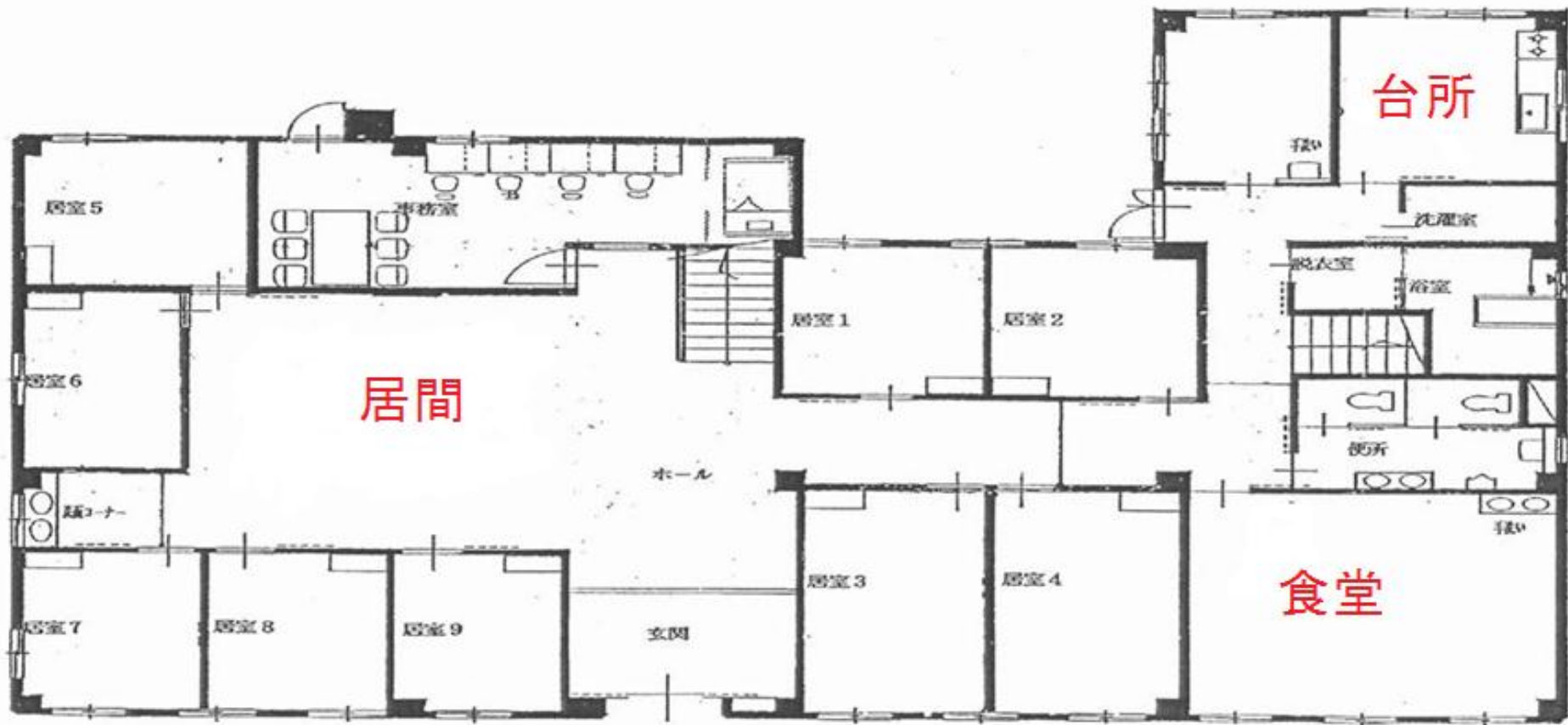
男性80歳 要介護1

病歴:アルツハイマー型認知症・不安神経症

入居時の特徴

- 帰宅願望が非常に強い。
- 自身の体調の変化に敏感であり、薬に対する依存心が強い。
- 歩行時にふらつきがあり転倒リスクが高い。
- 何事に対しても意欲がない。

入居後の生活と経過

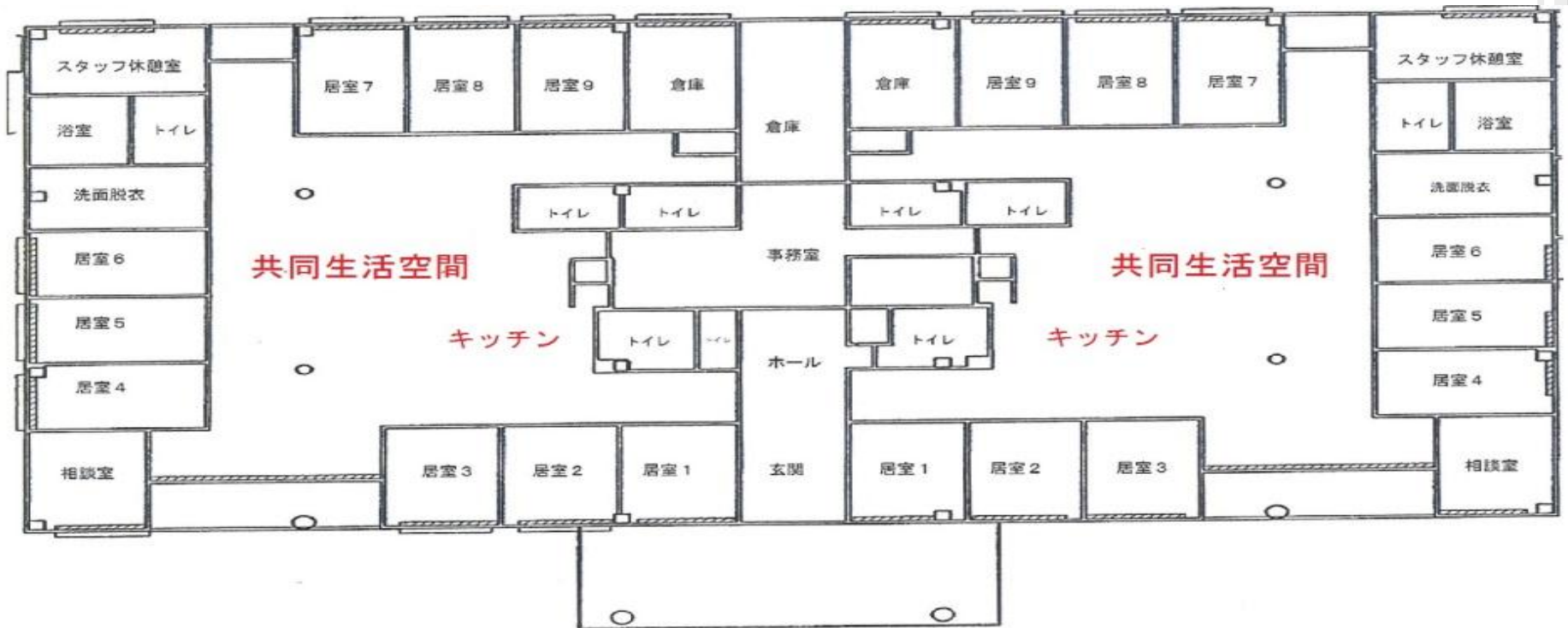


旧施設の図面

食堂、居間、台所が独立していた。

具体的な取り組み

- ・他入居者との距離を縮め、コミュニケーションが活発に行えるよう、席の配置を考慮した。他の入居者との橋渡しを積極的に行った。
- ・他入居者の関わり合いの中で、他の入居者が食器拭きや洗濯たたみなど手伝いをするのを見て興味を持ち始めた事を機に、Aさんに、場面設定と協働への働きかけを行った。



Aさんの変化

- ・笑顔や会話が増え、楽しそうに振る舞う姿が見受けられるようになった。また、他入居者を気遣う行動が表れた事や、Aさんご自身から能動的に話かけるようになった。



考察

- ・入所当初にあった帰宅願望や薬への依存心、不安による訴えはほとんど見られなくなった。
- ・他の入居者との関係性の構築には、居住環境が大きく影響する。
- ・日々の生活の中にリズムと活力が生まれるためには「役割を通じた生きがい」を持つ事が重要である。
- ・活動量(買物、水やり)が増加した事で、下肢筋力やバランス能力が向上し、歩行能力の改善が認められた。

まとめ

この症例を通じ、「人は人との関係の中で自身の役割を持つ事で生きがいに繋がる」という事を学んだ。
現在、Aさんは、以前と比べ自立性も高まり、職員の僅かな援助で暮らしていけるようになった。

これからも当事業所職員総意の理念

「幸福に生き、幸福に暮らし、幸福な人生を・・・」

の追求に努め、その人らしく生活してもらえるようお手伝いをしていきたい。